

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	運動発達支援スタジオ笑みりい～南花田		
○保護者評価実施期間	令和7年9月1日～令和7年9月30日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51名	(回答者数) 37名
○従業者評価実施期間	令和7年9月1日～令和7年9月15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年10月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どものニーズや保護者様のニーズを話し合い、支援にいかせているところ。顧問である、言語聴覚士や理学療法士等、専門職を含め、運動プログラムや生活プログラムが固定化しないように見直し、全職員で、空き時間を利用して内容を考え、共有しています。	感覚統合をベースとした運動プログラムではお子様の特性や性格などにも配慮し、子供同士で意見を出し合ったり、協力できるようにプログラムの組み立てをしています。	より専門的な支援ができるように、専門職会議や研修会を企画したり参加するように努め、職員全員で共有していきます。
2	朝礼でその日に来所する子どもについて話し合ったり、終礼ではその日の子供の様子を振り返り、次に通所する時に対応できるようにしている。	自由時間は子どもたちが楽しく、発散できるような遊びを考え、職員やお友達とコミュニケーションをとれるように工夫しています。また、お子様に合わせた内容のプログラムを提供する時間を設けています。利用児の課題や強みに合わせてその都度変えながらすすめています。また、利用日の様子を保護者様に丁寧に伝えるようにしています。	サービス担当者会議には必ず参加していき、事業所内では支援会議やケース会議を充実させ、他事業所との連携をしています。
3	提供記録を専用アプリで報告させていただくことで普段の活動の様子を毎回写真で見いただくことができるようになりました。	活動の様子がわかるように写真を添付してその時の様子もわかりやすく報告させていただいています。	笑みりい～の他店舗との合同会議を開き、教材や物品の貸し借りをを行い、多様に対応できるように支援の幅を拡げていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	避難訓練等の内容は周知できているが、お子様の安全確保についての保護者様への周知がまだまだ十分ではないと思います。	避難経路の確認は避難訓練を実施し経路の確認も行なっているが実際に災害が起きた場合の送迎の確認や利用時に災害が起きた場合の避難所を保護者様に周知できていない。	周知できるように、お手紙などでお知らせしていく。
2	空いた時間に研修することができるようになったが、外部の研修への参加の機会が取れないことが多い。	事業所全体で研修の機会を作っているが、外部の研修へは日程の調整が難しく、一部の職員しか受ける機会がなかなかとれない。	外部の研修に職員が積極的に参加できるように職員の体制を調整していく。
3	小学校や地域やの子どもたちとの活動をする機会が持ちにくい。	プログラムの時間が決まっていて調整が難しい。	引き続き、地域の子どもやきょうだい児も一緒に参加できるようなイベントを考えていきます。サービス担当者会議への参加は必ずしていき、交流していきます。